

・【第7回なかの保育園保護者説明会】

- ◆ 日 時 平成19年8月18日（土） 午前10時～
- ◆ 場 所 中野地区活動センター
- ◆ 出席者 なかの保育園保護者9名
- ◆ 内容等

市⇒ 市役所

な⇒ なかの保育園

保⇒ 保護者

台⇒ 台太郎保育園

市 それでは、これから第7回なかの保育園保護者説明会を開催する。

本日は、初めに8月1日になかの保育園移管先法人選定委員会において、移管先法人として社会福祉法人本宮福祉会が選ばれ、その後市が決定した選定の経過及び結果について児童福祉課長が説明する。

市 選定の経過と結果についてと社会福祉法人本宮福祉会の紹介を行う。日ごろは保育の様々なことで保護者の方にご協力いただき感謝申し上げます。

移管先の選定経過について説明する。6月10日に新たに建設を予定している土地の見学も兼ねて、現地説明会を行った。2 社会福祉法人の参加があった。最終的には、社会福祉法人本宮福祉会のみ応募だった。

次に、移管先法人選定委員会開催経過について説明する。委員会を全3回開催している。

第1回目は、5月10日に開催した。ホームページでも公表している選定評価表の項目について協議した。保育士の経験年数や配置、給食にかかる事項について、評価の重要な視点とするよう、保護者委員から様々なご意見ご要望をいただいた。事務局としては、保護者の思いが選定評価表に反映されたのではないかと考えている。3回の選定委員会だったけれど、保護者委員には様々な点でご労苦をおかけしたので、この場を借りて感謝申し上げたい。

第2回目は、7月20日に開催した。応募法人が設置運営している台太郎保育園の視察を行った。

第3回目は、8月1日に、書類審査と聴き取り審査を行った。

審査の視点は、次の3点に絞られる。第1点目として、安定的継続的に運営ができるか、第2点目として、信頼できる良好な保育が期待できるか、第3点目として、今後の保育サービスの向上が図られるかということをもとに命題にすえて審査を行っている。

社会福祉法人本宮福祉会は、第1点の財務内容について、税理士の委員に重点的に見ていただいたが、安定的継続的に運営できるものと評価された。

第2点は、岩手県が保育所の運営が適正に行われているかについて、毎年監査を行っ

ているが、この点についても、優れた内容であると評価された。

保育サービスの向上に対しても、積極的な姿勢がうかがわれると評価された。福祉サービスの第三者評価事業については、歴史が浅いが、これについても取り組まれており、保育所運営の向上について積極的であることが評価された。

なかの保育園の移管先として、適格であると評価された。

新たな保育づくりになるかと思われるが、なかの保育園の保育内容を確実に引き継ぐことと、長い間培われたなかの保育園の保育と台太郎保育園の良さを活かすということになるかと思うが、保護者の方の相互理解の下で、さらに良好な保育所になることが大きいと期待されると結ばれている。

7月20日の視察に係る内容についてだが、審査の過程で委員から園児が非常に元気が良いけれども、いつもこうなのかと聞かれた。

私が、別な機会に台太郎保育園を訪問したことがあり、30分ほど園庭で子どもの様子を見ていたが、どの子どもも非常に元気がよかった。選定委員の一人が感じられたように私も感じた。

一般的に良い保育が行われると、子どもの心が安定して行動が活発となり、表情がはつらつとなるといわれている。そういった意味で良い保育が行われているものと思う。

園庭の遊びの中で、年長の子どもが気を配りながら、いたわりながら整列させているのが、非常に印象に残っている。

こういった光景を見て、兄弟の少ない現代社会にあって、なおさら異年齢児の交流が非常に大きな意味を持つのではないかと改めて感じた次第である。

社会福祉法人本宮福祉会から事業推進方針として、異年齢児保育の推進が提案されたが、大きな子どもが小さな子どもの頭をなでたり、大きな子どもが自分としてはおもちゃを使いたいが、小さい子どもに譲るなどを見たりして、日々の体験を通じて、いたわりや思いやり、正義感などが育まれているのかなと思う。

台太郎保育園の施設も非常に工夫が凝らされていた。園長先生に、保育に詳しい設計士に依頼したのかと聞いたが、そうではなく、保育士の意見を聞いて設計に反映させたのだと聞いた。こういったところにも保育に取り組む法人や園長、保育士の姿勢が感じられた。

法人の沿革については、昭和50年の4月に当時の乳児保育の需要に応えるために、先代の理事長が、産休明けから2歳までの定員20名で、本宮ベビーホームを開設している。

区画整理事業として、移転改築し、平成3年4月から、現在の台太郎保育園として60名の定員として運営している。

平成15年からは、現在の定員90名として運営している。

理事長については、現在台太郎保育所運営の傍らに、医療法人久遠会の理事長として、鎌田内科クリニックのほか、老人保健施設、介護支援施設の運営に携わっている。

様々な形で社会に貢献されている。

園長については、本宮ベビーホーム、台太郎保育園の前身から保育に携わっている。現在は、本宮福祉会の理事及び園長として、並々ならぬ熱意を持って保育所の運営に携わっていることは、多くの保育関係者が知るところである。

保護者の方には、様々なご協力を頂いたことに感謝申し上げ、移管先法人の選定の経過と結果について報告する。

市 社会福祉法人本宮福祉会の中村ミサさんと村上奈穂子^{なほこ}さんを紹介する。

平成 21 年 4 月からは、中村ミサさんが園長として、村上奈穂子さんが主任保育士としてくる予定だ。

中村園長から一言挨拶をお願いします。

台 おはようございます。ただいま紹介をいただきました台太郎保育園の園長の中村ミサです。よろしくお願いいいたします。私たちは、子供たちのために、保護者の協力を得ながら、保育園は 1 日 13 時間を過ごす児童もいるので、そういう生活の中で保育所を最高の居心地の良い場所として、保育園をつくっていきたい。それには、保護者の方々の協力が必要なので、どうぞよろしくお願いいいたします。

当園では、主任保育士は交代制としている。村上は、昨年まで 3 年間にわたり主任保育士を行っていた。いざというときは誰でも主任保育士の業務を担えるようにという趣旨である。今年からは新しい主任保育士となっている。主任保育士以外の代表者として、副主任保育士を 4 人置いており、そのリーダーをしています。村上を紹介します。

台 台太郎保育園の副主任保育士の村上奈穂子と申します。1, 2 歳コーナーを担当しています。よろしくお願いいいたします。

市 この時間に皆様から質問があればお受けしたい。

これから三者懇談会の中で何度も話し合う機会を設けるので、そちらで話し合うということにして、次に進みたいと思う。

移管先法人が決定したので、移管に向けて、平成 20 年から引継保育を開始し、平成 21 年からは移管の中で、保護者の方々と移管先法人の方々となかの保育園も含めた市の三者で懇談をしながら、移管計画（案）について具体的な内容を詰めていく。

皆さんが思い描いている保育所運営、移管先法人が考えている保育所運営、市としての取り組んでいただきたいものがあるので、それらを具体的に明らかにして、移管後の保育所運営の形を明らかにしながら、皆様方がはっきりとつかめるように平成 21 年の 4 月に向けて話し合っていきたい。

これからの進め方だが、津志田保育園の例では、保護者の役員の方々と法人の方々と市とで進めていくことを提案したが、保護者の方々からは、全員が参加できるよう、日程を固定するという形ではなく、その都度保護者会と日程を調整し設定して、保護者全員に案内をして懇談会を開催している。主に役員の方と懇談会を進めていくやり方と保

護者全員と懇談していくやり方があると思うがどちらがよいか意見を伺いたい。

皆様からご意見をいただいて進めて行きたいと思う。

保 津志田保育園と同じように、全員の方と話し合うような形で進めて行きたい。役員の方だけに任せてしまうと経緯が見えなくなるので、保護者全員が参加できるようなやり方のほうが良いと思う。

市 他にご意見はないか。

な 三者懇談会の開催の仕方だが、定例なのか不定期なのか。概ね何回くらい開催していくのか。

市 例えば津志田保育園で1～2か月に1回のペースで開催している。なかの保育園の場合、引継保育までの期間があるので2か月に1回くらいのペースを考えている。移管計画の期別ごとに内容を市から説明申し上げて、皆さんと話し合いながら進めていきたい。

保護者の方へ情報の伝え方としては、懇談会の内容や市として伝えたいことなどをNEWSの形で、全保護者に配布する方法を取っている。

市 来週もう一度同様に説明会を行う予定だが、本日参加された方の希望として、三者懇談会は、全員が参加できるやり方が良いという意見であったということで持ち帰らせていただく。そちらの意見と合わせて判断させていただきたい。

市 保護者の方全員に案内を差し上げて進めさせていただき、出席できない方には、NEWS等をお配りしてお知らせするという方法にしたい。

また、移管計画にも書いてあるとおり、引継保育の調整や引継後に定期的な訪問を行うために、今年度から、皆様が良くご存知の前なかの保育園長である馬場先生に児童福祉課の保育相談員として、非常勤として働いていただいている。

現在は、津志田保育園が引継保育を開始しているので、そちらに定期的に訪問して、引継保育の状況について助言や保護者の方からの質問等があれば相談を行っている。

保育相談員をご紹介します。

これから皆さんとお付き合いを昨年に引き続きすることとなるので、皆様よろしくお願ひします。

市 初めてお目にかかる方もいらっしゃると思いますが、皆様どうもしばらくでございました。

なかの保育園に1歳の子どもが卒園するまで勤めておりました。4月から皆さんと子供たちのために力になれることがありましたら、一緒に考えていきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

市 保護者の皆様からの要望があり、それにこたえる形で、定員を増やして、非常勤としてお願ひしたものだ。皆様これからよろしくお願ひいたします。

市 今後の大まかなスケジュールについてお話ししたい。本日と23日になかの保育園の保護者説明会を開催し、移管先法人選定の経過と結果についてと移管先法人の紹介を行いたいと思う。

本日皆様にお諮りした三者懇談会を今後継続的に開催し、より良い保育園にするため

に話し合っていきたいと思う。

平成 20 年 4 月から引継保育として、移管先法人として決定した台太郎保育園から 3 人の保育士に来ていただく予定となっている。

1 人は、今日見えている村上さんが、主任保育士として、なかの保育園の主任と一緒に 2 人の主任保育士体制で、1 年間かけて保育全般的なことを見ていただく予定だ。また、児童の把握に務めていただく。残りの 2 人はクラス担任として入っていただく。その後 10 月からさらに 3 人来ていただいて、必ず各クラスに移管先法人から来た保育士さんに入っただき、平成 21 年 4 月の移管時に公立保育所の職員が他の保育園に異動になっても、必ず引継保育期間中にいた保育士が残っているように考えている。

また、市で用意している土地に、平成 20 年度中に新しい園舎の建設を行い、平成 21 年 4 月から新しい園舎で保育を行う予定となっている。新しい園舎の建坪は、950 m²で現在のなかの保育園の園舎が 400 m²なので、2.25 倍となっている。

皆様にご迷惑をおかけしている駐車場についても確保する予定となっている。

平成 21 年 4 月からの新しい保育園の様子としては、現在 90 名の定員だが、120 名定員となる予定だ。0 歳児からの保育を行うこととなる。

現在は、1 時間延長保育を行っているが、2 時間延長保育となる。

また、特別保育として一時保育と地域子育て支援センター事業を行う予定となっている。

今後皆様には、お配りしている移管計画（案）について説明し、移管後の保育内容が具体的にわかる形で話し合いを続けていくこととなる。

市 スケジュールと新しい保育園の概要について説明した。

就学前の児童の 4 割が保育園・幼稚園に入っていないことから、地域子育て支援センター事業を行うことで、その方への支援を行っていききたいということになる。

何か質問はあるか。

保 地域子育て支援センターというのは、小学生は関係がないのか。児童センターとか関係ないのか。

市 子育て支援センターは就学前児童が対象となる。保育所用地の隣接地が児童センター建設予定地となっているが、子育て支援センターとは別の話となる。

保 この地域は 300 世帯の団地として造成されたが、業者の話では児童センター建設予定地として用地を確保していると言われていた。児童センター建設の予定はあるのか。

また、日程については集まらないこちらが悪いのだが、人数が集まらないときにどのような日程を設定するか検討をお願いしたい。一度も説明を聞かない保護者がいるのは良くないので、多くの方が集まれるよう調整をお願いしたい。

市 児童センターの建設については、まちづくり懇談会などでも地域の方から要望を受けており、確かにそうだろうと思っている。保育園の入所希望が増えているということは、当然連動する形で小学生の放課後の問題が出てくる。学童保育クラブの環境についても

市議会で取り上げられている。市として子育て支援の予算は、全体の予算の中で、他の予算を削るなどしているが、なかなかその需要に追いついていないのが現状だ。19年度については、私立保育園に対する支援なども別枠で、民営化で生み出された財源をあてている。

また、来年度についても、なかの保育園の建設にかかる費用についても、市として法人に対して支援していかなければならない。

市長は、保育料について、さらなる引き下げや学童保育への支援の強化を行っていくことを話している。

児童センターの建設について、計画されていくだろうが、未設置区などもあり、その調整もある。

この地区の街づくり懇談会では、最初に保育園を建設してほしいといわれているので、今回の保育園の建設となったものである。児童センターについても敷地は確保しているので、子育て支援の施策の中で、何年とはいえないが、計画は立てられるであろうと考えている。

津志田保育園の状況からお話すると、15回の説明会を開催したが、曜日や時間を変えながら、進めた。

意見を伺いながら、懇談会の日時を設定したいと思う。

市 全員の参加は難しいと思う。市としても少しでも多くの方の意見を伺えるよう、様々な曜日や時間を変えてきた。何か意見や質問がある場合は、保育園や児童福祉課に寄せていただいて、市としてもそれらについて答えて、保護者の方に返していきたい。

保 今後の三者懇談会を実りのあるものとしていくために、なるべく多くの方に参加してもらいたいと思っている。ただ、どうしても集まらない方もいると思うので、そういう方にはお便り等を使いながら伝えていきたい。

三者懇談会は、市と移管先法人と保護者で進めていくことになるが、どこが主体となって進めていくことになるのかイメージできない。津志田保育園ではどのように進められているのか教えていただきたい。

また、次の三者懇談会をいつごろ開催するかも教えてほしい。

市 今後の移管をどのように進めていくかを三者で情報を共有するために、市から打診して三者懇談会を進めている。

日程については、保育園の行事と保護者会の予定を確認して、できるだけ早く決めていきたい。

保 基本的には、市が作った移管計画を基に懇談会を進めていくということによいか。

市 そのようになる。

市 いつ頃というのを決めた方が良いのでは。

市 計画案に沿って話を進めていくが、あくまで案なのでここはこうしてほしいというものがあれば、要望として出してほしい。時期としてはすぐにできるが、保育園の行事と

かの関係もある。

市 9月の最初の土曜日は運動会がある。

な 懇談会の開催について、毎回のテーマを決めていただいたほうが話を進めやすいので、そのようにお願いしたい。

市 保育園の行事としては9月の最初の土曜日。10月には、焼き芋会がある。次回の三者懇談会は、9月下旬頃ということで考えていきたい。

また、これはお知らせということになるが、現在、津志田保育園では日々の保育について保育士の配慮や動きについてデイリーマニュアルを作成している。なかの保育園でも引継ぎにあたっては、同様の作業を主任保育士を中心に進めることになる。

市 皆様から何かないか。9月下旬をめぐりに第1回三者懇談会を開催し、テーマを決めて、全世帯に懇談会の案内を差し上げて、その内容については、NEWSでお知らせしたい。本日は、これをもって終了する。ありがとうございました。